

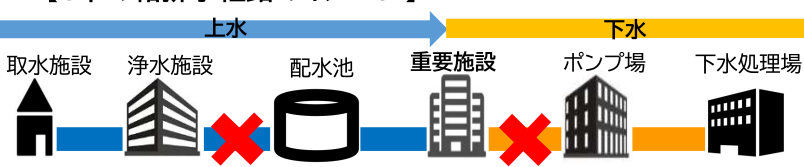
次期水道料金・下水道使用料改定について(静岡市上下水道局)

1 改定の経緯

①能登半島地震の経験



【1本の給排水経路のイメージ】

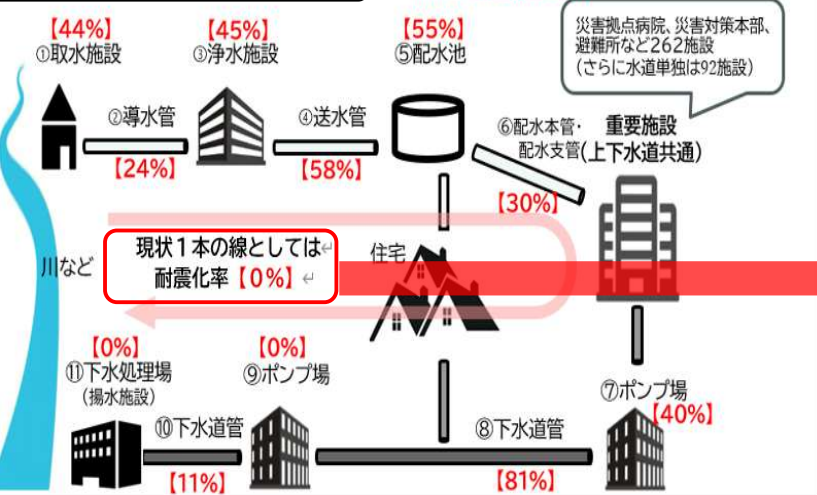


大地震発生後、1本の給排水経路のどこかが壊れると、その経路上の全ての地区で給排水ができない。

→大地震時の給排水確保のため、**1本の経路(線)としての「線的耐震化」の重要性を認識した。**

②静岡市の耐震化の現状

静岡市の耐震化率【 】 2025年3月時点



「線的耐震化」が不十分で、大地震時に一部損壊で給排水が停止する恐れがある。

③耐震化計画の見直し

| 優先順位 | 種別   | 施設名称                 | 2035年まで   | 2040年まで |
|------|------|----------------------|-----------|---------|
| ①    | 人命   | 災害拠点病院、救護病院、透析病院     | 給排水を確保(※) | 給排水を確保  |
| ②    | 指令機能 | 災害対策本部(県・市庁舎、警察、消防等) |           |         |
| ③    |      | 避難所(中学校区内に1か所)       |           |         |
| ④    | 避難生活 | 避難所(小学校区内に1か所)       | 給排水を確保    |         |
| ⑤    |      | その他避難所等              |           |         |

※一部、施工困難な下水道の耐震化は除く

最重要な給排水経路を選択して、取水から排水処理までの一本の線がつながっているという状態を確保する上下水道一体の「**選択的線的耐震化**」を進める。

【2035年まで】

- ・災害拠点病院、災害対策本部
- ・中学校区1箇所の避難所(給水拠点)

【2040年まで】

- ・小学校区に最低1箇所の避難所(給水拠点)

④15年間の投資・財政計画の試算

|             | 2025から15年間 | 水道      | 下水道     | 上下水道合計   |
|-------------|------------|---------|---------|----------|
| 1総費用        |            | 4,135億円 | 6,822億円 | 10,957億円 |
| うち、耐震化対策    |            | 993億円   | 516億円   | 1,509億円  |
| うち、老朽化対策等   |            | 681億円   | 1,440億円 | 2,121億円  |
| 2財源合計       |            | 3,538億円 | 6,388億円 | 9,926億円  |
| 3財源必要額(1-2) |            | 597億円   | 434億円   | 1,031億円  |

老朽化対策等に加え、耐震化対策を加速するために将来の財政見通しを試算したところ、**水道料金・下水道使用料を改定する必要が生じた。**

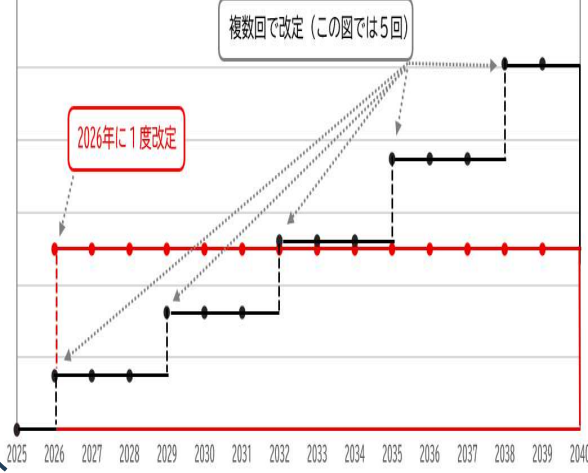
※地方公営企業は原則、「独立採算制」(税金に頼らず、利用者の料金で運営する仕組み)

2 改定の基本方針

①改定周期

15年間で1度の改定の場合では改定額が大きいことと、世代間の負担の公平性を考慮し、**投資集中期間(15年間)を3～5年で分割し、段階的に複数回改定することとする。**

(15年間で1度の改定、5回(改定周期3年)の改定のイメージ)



※面積(収入総額)は同じ

2026年に1度改定

複数回で改定(この図では5回)

②料金体系

| 静岡市の現行の体系                                                          | 他都市の体系                                                |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 「基本料金+従量料金」からなる体系。従量料金の設定は使用水量が多いほど単価が高くなる体系。(逦増料金制) ※水道の基本料金は口径別。 | 静岡市と同じ体系を19政令市及び21県内市町で採用している。 ※水道の口径別は大阪市と川崎市を除く全市町。 |

③利用者区分ごとの改定率の方向性

【現行料金・使用料合算(1か月)の大都市比較(20政令市、東京都: 2025.10月時点)】 静岡市調べ ※順位が低い(下位)ほど料金が安い。

| 利用者の区分(想定)    | 少量                  |                     | 中量                    |                       | 大量                       |                         |
|---------------|---------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------|
|               | 単身世帯                | 一般家庭(2~3人世帯)        | 飲食店、コンビニ営業所、店舗        | スーパー事業所               | 学校、病院、商業施設、社会福祉施設、大規模事業所 |                         |
| 水道料金・下水道使用料合算 | 20mm/10㎡<br>5位/21都市 | 20mm/20㎡<br>7位/21都市 | 25mm/100㎡<br>20位/21都市 | 40mm/500㎡<br>21位/21都市 | 50mm/1,000㎡<br>21位/21都市  | 75mm/5,000㎡<br>21位/21都市 |

【少量利用者の料金】 他都市より**高い**      【中量・大量利用者の料金】 他都市より**安い**

利用者間の負担バランスの見直しが必要。

今回の改定は、主に南海トラフ地震に備え、「**選択的線的耐震化**」を加速するため、**利用者全体に整備効果をもたらすものであることから、利用者全体を対象に一定の改定が必要である**と考える。

③利用者区分ごとの改定率の方向性

**全利用区分で増額の改定**とするものの、他都市と比較し安価となっている**中量～大量利用者の改定率を高め**に、**少量利用者の改定率を低め**に設定することとする。